

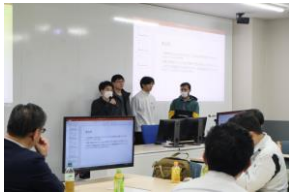
～ 「多可町商工会×流通科学大学関陽ゼミ」プロジェクト ～

活動の様子



企画・活動概要

兵庫県多可町商工会と連携して実施した社会共創活動である。人口減少・若者流出という地域の課題に対して、学生の視点で解決する実践型プロジェクトである。ゼミ生が4つのチームに編成され、株式会社田井織工、加美電機株式会社、特定非営利活動法人cambio、千住金属工業株式会社の4つの企業・団体とタイアップし、それぞれの企業・団体の新卒採用強化に向けた広報提案を進めてきた。キックオフ、第1次現地訪問、タイアップ企業とのキックオフ、第2次現地訪問、中間発表を経て、最終発表でそれぞれのチームが提案を発表した。



経緯・背景・目的

本活動は、兵庫県多可町における若年層の流出や地域企業の人材不足といった課題を背景に実施された。地域企業では、魅力ある仕事や職場環境があるにもかかわらず、その情報が学生に十分伝わっていない現状がある。こうした課題を受け、本学の学生が企業と連携し、若者の視点から効果的な採用広報の在り方を検討・提案することを目的としている。



取り組む課題

- ① 地域企業の人材不足：地方では若年層の流出により、働き手が不足。特に新卒採用が難しい状況
- ② 若者への魅力発信の不足：地元企業の仕事内容、やりがい、職場環境が十分に伝わっていない。「良い企業でも知られていない」という問題。
- ③ 採用広報の手法の課題：情報発信が形式的、古い手法中心。学生に響くコンテンツになっていない。
- ④ 地域の人口減少・若者流出：都市部への流出により、地域の活力が低下。地元で働く選択肢が十分に認識されていない



本学(学生)の役割

本学の学生は、地域企業・団体が抱える人材不足や採用広報の課題に対し、若者の視点から具体的な解決策を検討・提案する役割を担った。4つのチームに分けて、それぞれのタイアップ企業・団体へのヒアリングや現地調査を通じて課題を分析し、その結果を基に具体的な改善案を提示した。また、就職活動を控えた当事者として、学生にとって魅力的に映る情報発信の在り方を示し、企業と学生をつなぐ橋渡しの役割も果たした。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本活動では4つのチームがそれぞれ企業の課題に応じた提案を行った。あるチームは工場や業務内容を動画で可視化し、仕事内容の理解促進を図る施策を提案した。別のチームは製品の社会的意義や企業の強みを分かりやすく発信する広報改善を提示した。また、職場環境や社員の声を紹介することで、働くイメージを具体化する提案も行われた。さらに、採用情報の整理やSNS活用など、若者に届きやすい発信手法の導入が提案された。また、学生にとっても実社会の課題に取り組む経験を通じて、課題解決力や実践的な思考力の向上が図られた。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



経済学部
経済情報学科
准教授
関 陽(カン ヨウ)

<専門・担当科目等>
データベース、応用プログラミング、
情報処理入門、公務員特別演習Ⅰ、
経済情報特別演習Ⅰ、専門基礎演習、
研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究など

ゼミ生たちが社会共創活動の課題解決にチャレンジすることを通じていろいろな面で大きく成長することを期待したい。

<関係者・企業等>



多可町商工会
工業部会部会長
特定非営利活動法人 cambio代表者
後藤 高広(ゴトウ タカヒロ)

今の若い世代が応募したくなる企業はどのような姿なのか、求人やインターンシップなど、どんな企業が選ばれるのか。選ばれるために必要なPR活動を実施していきたい。ぜひ学生の皆さんの目線で、様々な提案をしてほしい。